

## 7月6日全校朝会講話 ～七夕の由来から考える～

先週は、5年生の山中湖移動教室がありました。学年の目標に向かって、一人一人が一生懸命動こうとする姿が見られました。学年のまとまりを高める3日間でした。

さて、明日、7月7日は、七夕です。短冊に願いごとを書いて笹に結び付けたり、織姫と彦星のお話が有名だったりします。そこで、7月の由来について調べてみました。

七夕は、じつは3つの内容が合わさって生まれた行事のようです。

一つ目が、「中国の星のお話（織姫と彦星）」の内容です。

昔の中国では、空に光る星をととても大切にしていました。その中でも、天の川をはさんで輝く織女星（しょくじょせい）＝織姫と 牽牛星（けんぎゅうせい）＝彦星の物語が広まりました。働き者だった2人が結婚したあと、遊んでばかりの生活になってしまい、天の神さまが2人を天の川の両岸に離してしまう。でも、あまりに悲しむので、年に一度だけ会える日が作られました。それが7月7日だそうです。

二つ目が、中国で主に女の子向けに「裁縫や字が上手になりますように」と願い事をする行事がありました。その行事が行われたのが7月7日で、縫物に使われた五色の糸が、今の五色の短冊のもとにもなりました。

三つめが、日本で昔、行われていた、「川のそばで布を織り、神さまにお供えする「棚機（たなばた）」という行事が、中国から来た七夕（しちせき）と合わさり、今の「七夕（たなばた）」という言い方になったそうです。

七夕は、中国との関係の中から伝わり、昔からの人々の生活の中で根付いてきたものということが分かります。願いは「書くだけ」ではなく「行動」で、実現するものでもあります。昔の人は、物事が上達するように努力を続けました。願いと行動は、いつもセットです。

1学期も残り2週間となります。1学期の目標に対しての自分の努力を考えるきっかけにしたいものです。